

平成26年度

事業報告書

自 平成26年 4月 1日
至 平成27年 3月31日

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

東京都三鷹市新川5-14-16

I 公益目的事業の実施状況

1 社会教育（アジア・アフリカ図書館）事業

(1) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する蔵書収集及び閲覧・貸出し

① 蔵書収集

書籍 136 点を購入。このほか個人や団体からの 556 点の寄贈を受け付けた。

② 閲覧・貸出し

開館日時・日数、ならびに利用者数・利用申込者数・貸出し実績は以下の通り。

<開館日時・日数>

火・水・金曜日 12:00～17:00（第3水曜日は休館）

土・日曜日 09:30～17:00

開館日数 243 日

<利用状況>

利用者数 795 人、利用登録者数 173 人、貸出し冊数 269 点

(2) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する文化講座の開催

文化講座「第23回アジア・アフリカを知る集い」を次の通り開催した。

講座題目：『信仰によって発展する現代社会：インドネシアとムスリム地域
社会の形成』

講演者：阿久津正幸（あくつ・まさゆき、東洋大学国際学部非常勤講師）

開催日：平成26年10月18日

開催場所：アジア・アフリカ語学院教室（三鷹本部社屋3階）

参加者数：21人

(3) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する調査・翻訳の受託

法人や個人からの依頼を受けて年間27件の翻訳案件を処理した。

(4) 三鷹市立図書館との協働事業関連

「三鷹市立南部図書館みんなみ」（当法人三鷹本部社屋1階。以下、南部図書館という。）との協働事業として、以下のことに協力した。

- ① 南部図書館内に設けられた展示コーナーで行う郭沫若関連の企画展示に対して、郭沫若文庫の所蔵品を無償で貸し出した（前年度から継続実施）。

② アジアの絵本の読み聞かせの会において、専門学校アジア・アフリカ語学院在籍の留学生が母語で絵本を読むボランティア活動を行った（前年度から継続実施）。

③ 南部図書館開館 1 周年を記念した行事が平成 26 年 11 月 23 日に開催された。概要は以下の通り。

<午前の部>

子どもを対象にした行事「留学生とあそぼう」に専門学校アジア・アフリカ語学院在籍の留学生が参加し、様々な企画に協力した。

開催場所：アジア・アフリカ語学院教室（三鷹本部社屋 3 階）

参加者数：子供 67 人、大人 49 人、スタッフ 24 人、計 140 人

<午後の部>

ドキュメンタリー映画上映会の企画に協力した。

企画名：映画『チベット天空の英雄ケサル大王』上映会と講演会

講演者：大谷寿一（映像作家。『チベット天空の英雄ケサル大王』監督）

開催場所：アジア・アフリカ語学院教室（三鷹本部社屋 3 階）

参加者数：56 人

(5) その他

台湾の絵本作家・陳芳怡（チェン・ファンイー）女史の原画展開催を後援した。

展覧会名：『台湾絵本作家・陳芳怡原画展』

紹介点数：約 20 作品

開催期間：平成 26 年 11 月 23 日から同 28 日

開催場所：アジア・アフリカ図書館エントランスホール（三鷹本部社屋 2 階）

観覧者数：延約 500 人

※ 陳女史は専門学校アジア・アフリカ語学院日本語学科修了生。

2 学校教育（アジア・アフリカ語学院）事業

(1) 日本語ならびにアジア・アフリカの言語・文化・社会に関する教育

ア 学校教育法第 124 条に基づく専修学校専門課程の教育

日本語学科は従来の 1 年コースと 1.5 年コースの 2 コースに加え、2 年コースを新設した。ただし、2 年コースは設置のみで、平成 26 年度中の受入れは行わなかったため、実員はなかった。平成 26 年度の日本語学科各コースの開講実績は以下の通り。

- 〈開講コースと入学・在籍者数〉 ※ 人数は本科生のみ。科目等履修生や聴講生は除く
- | | |
|------------------------------------|------------------------|
| 平成 25 年 10 月 入学 進学 1.5 年コース (51 期) | 在籍者数 16 名 (26 年 4 月時点) |
| 平成 26 年 4 月 入学 進学 1 年コース (52 期) | 入学者数 36 名 |
| 平成 26 年 10 月 入学 進学 1.5 年コース (53 期) | 入学者数 65 名 |
- 〈卒業生数〉 ※ 人数は本科生のみ。科目等履修生や聴講生は除く
- 平成 26 年度の卒業生数は 29 名

アジア系語学科の新規入学者はなし。なお、平成 27 年度より日本語学科の定員を増やすため、アジア系語学科の定員を縮小する学則変更を行った。

イ 専修学校の附帯教育及び別科

(ア) 個人を対象とした教育

一般社会人向けの教育、いわゆる生涯教育では、土曜コース語学講座（別科速成科昼間クラス）の他、少人数のニーズに応える特別講座や短期の語学講座等を実施した。また、初心者を対象にした語学の体験講座を企画し、三鷹ネットワーク大学の文化・教養講座の一つとして開講した。開講言語及び受講者数は以下の通り。

《土曜コース（別科速成科）》 ※ 受講人数は延人数

- 入 門 : インドネシア語 3 名
初 級 : アラビア語 計 11 名
中・上級 : アラビア語、韓国語、タイ語 計 54 名

《特別講座》 ※ 受講人数は延人数

- アラビア語会話、アラビア語基礎構文、アラビア語初級会話、アラビア語講読、アラビア語文法復習、アラビア語入門・初級、アラビア書道、ベトナム語入門、韓国語夜間講座 計 129 名

《セミプライベートレッスン》

- ベトナム語 2 名

《三鷹ネットワーク大学における語学の体験講座》

- 韓国語他 全 9 言語（平成 26 年 4 月）
タイ語他 全 9 言語（平成 26 年 10 月）

(イ) 法人・自治体・国の機関を対象とした教育

官公庁からの派遣語学研修生を対象としたクラスを中心にアジア・アフリカ語の語学研修を下記の通り行った。

《語学研修》

- ウルドゥー語 1 件、アラビア語 1 件、ベトナム語 1 件、韓国語 1 件
日本語 1 件、英語 6 件 以上、11 件を実施

ウ 在日外国人子弟に対する日本語教育及び学習支援

新社屋建設工事のため平成 23 年度を最後に休止していた夏休み期間を利用した三鷹市内在住の外国人子弟対象の「日本語教育支援プログラム」について、平成 26 年度はこれを再開した。概要は以下の通り。

実施期間：平成 26 年 8 月 11 日から同 29 日までの間の 8 日間

学習時間：1 日あたり 50 分授業を 2 回

受講者：3 名（小学 5 年生～中学 3 年生）

(2) 学生寄宿舍の運営

専門学校アジア・アフリカ語学院に在籍する留学生の学生寮として、当法人所有施設「有朋館」（ゆうほうかん、全 20 室・基本入居可能人数 23 人）と「青雲公寓」（せいいうんこうぐう、全 4 室・基本入居可能人数 8 人）を使用し、運営した。平成 26 年度の年間稼働率は、有朋館が約 97%、青雲公寓が 88%だった。このほか、近隣の民間賃貸物件 22 室も寄宿舍として利用した。

(3) その他

ア 市内の小学生との交流活動

例年同様、近隣の市立小学校と日本語学科留学生が交流する活動を 2 回に分けて行った（平成 26 年 11 月、同 12 月）。

イ 三鷹国際交流フェスティバルや地域の行事への参加

三鷹国際交流協会主催の「三鷹国際交流フェスティバル」に日本語学科留学生の有志が参加。専門学校アジア・アフリカ語学院のテントショップや各種イベントの運営に携わった（平成 26 年 9 月）。また、同留学生らは、自治会などが主催する地域の夏祭りや、近隣の市立小学校の父兄グループが主催する小中学生を対象とした交流イベントにも参加した。

ウ 日本語教育関連プログラム受講生の授業見学の受入れ

日本語教育関連プログラムを履修している大学生に対して、現場実習の一環として、専門学校アジア・アフリカ語学院日本語学科の授業を公開した（都下私立大学 2 校、計 3 回）。

3 国際交流事業（人材交流活動）

(1) アジア・アフリカ世界と日本の人々を対象とした異文化体験の提供

平成 26 年度は実績なし。

(2) アジア・アフリカ世界と日本の教育者・技術者などを対象とした人材交流の実施 ならびにこれに係る職業紹介

「日本語教師実践力養成講座」を企画し、平成 27 年の試行実施に向け、受講者の募集を行った。

4 国際協力事業

(1) 外国人技能実習生受入れ活動

文京支所（東京都文京区西片）を拠点に業務を遂行した。受入れ実習生の講習場所は前年度同様、茨城県美浦村の研修センターを利用した。平成 27 年 3 月末時点における同業務の概況は以下の通り。

受入れ技能実習生数：364 名
実習実施機関数：6 社 9 機関
提携送出し機関数：8 機関（中国 6、ベトナム 2）

このほか、技能実習生を対象とした日本語力向上支援プロジェクトを立ち上げ、通信型の日本語力フォローアップ教育の開発に着手した。

(2) 日本語教育普及活動

平成 26 年度は実績なし。

Ⅱ その他の法人業務の状況

1 会員

平成 27 年 3 月末現在の会員内訳は以下の通り。

普通会員（個人）	19 名	
特別会員（法人、団体）	2 社	
賛助会員※（法人、団体）	6 社	※ 技能実習生受入れ企業が対象

2 その他

とくになし。

以上

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

平成26年度 事業報告の附属明細書

「事業報告の内容を補足する重要な事項」の該当なし。

以上